和歌山大学教職大学院

大学院教育学研究科教職開発専攻

学校教育の未来を担うリーダーを養成します！

5つの特色

1 研究者教員・実務家教員の協働による充実の指導体制

専門分野の理論と実践の融合を図ってきた大学教員だけでなく、教育実践が全国レベルで評価されてきた先生、和歌山県下で現職教員の指導で活躍している先生、和歌山県下で先進的な学校経営を行ってきた校長経験者などの実務家教員を加えた充実の指導体制を備えています。
また、院生のテーマや学習状況に応じて、少人数できめ細やかな指導を行っています。

2 和歌山県特有の課題に応じたカリキュラム

「和歌山県における家庭・地域と連携した学校づくり」、「小規模校支援」など和歌山県の課題に応じたカリキュラム構成で、地域の課題について理解を深め、解決に取り組むための視座を学習します。

小規模校実習

3つのポリシー

ディプロマ・ポリシー

～学位授与の方針～

和歌山大学の目的及び使命並びに教育学研究科の目的に基づき、研究科の専門教育を通して、「学び続ける教師」として次の目標に到達していると認められる者に教職修士（専門職）の学位を授与する。

1. 高度な専門性と研究力
   - 学校教育において教育活動を行うための高度な専門的知識や実践力を身につけている。
   - 学校や教育実践に寄与するために、課題解決に取り組むための力量を有している。
   - 自律的に課題を発見・解決する柔軟な思考力や研究遂行力を身につけている。
   - 短期的・長期的な視野に立ち、反省的実践者としての省察に基づいて教育活動の改善に取り組むための力量を有している。
2. 協働性と倫理性
   - 基本的人権を擁護し、他者と関わりながら教育活動を高度に展開するための基盤を有している。
   - 研究倫理を順守し、教育の発展に寄与する高度な研究活動を行う基盤を有している。
3. 地域への関心とグローバル視点
   - 地域をグローバルな視点から理解し、地域社会と協調的な関係を構築するための高度な専門的知識や技能を身につけている。

カリキュラム・ポリシー

～教育課程編成・実施の方針～

【教育課程編成の視点と内容】

1. 「学び続ける教師」として求められる高度な専門的知識や技能を身につけるため、体系的・系統的なカリキュラムを設定する。その内容は、専攻共通科目（専攻共通基礎科目及び専攻共通深化科目）、コース専門科目、実習科目、実習関連科目及び修了研究に分類する。
2. 教育課程の編成に際しては、以下の内容を視野に入れる。
   - 最新の専門理論・技術と実践の架橋
   - 地域の学校・子どもの実態、必要性に応じた実践を行うための理論・技術の修得
   - 時代が求める教育を地域に応じて展開できる理論の修得と実践

アドミッション・ポリシー

～入学者受入れの方針～

【求める学生像】

教育学研究科では、「学び続ける教師」として、次の各要素を備えた人物を求める。

1. 学士課程の学びを通して大学院入学後の学校教育に関する高度な専門的知識を学ぶ基礎となる能力・技能・研究力を有する人。教職経験を通して実践知のある人
2. 主体的に新しいことに挑戦し、学校教育の分野において社会に貢献しようとする意欲や態度を有する人。教職経験を通して反省的実践者として学び続ける意欲を有する人
3. 明確な目的意識を持ち、他者と協働して学校教育の分野における課題解決に取り組む意欲や態度を有する人。教職経験を通して学校や教育実践に寄与するという意識を有する人
4. 学問や研究に真摯に取り組む態度を有する人
5. 基本的人権を擁護し、円滑なコミュニケーション能力を有する人

3 現場と連携し、理論と実践を融合する実践的カリキュラム

1年目は毎週1回インターンシップに取り組み、現場の指導者と大学院教員とのカンファレンスを行うことで、大学院で学んだ理論と現場の課題を融合させ、より実践的な学習と省察に取り組みます。

4 福祉分野との統合による子どもの全体的な支援を考えるコンテンツ

特別支援教育だけにとどまらず、福祉分野の専門家による「教育と福祉の連携」、「問題行動と保護者との連携」などの科目によって、子どもの育ちや環境を全体的な視点で考え、学校と福祉が連携した支援体制のあり方を考えるコンテンツを用意しています。

5 Society5.0に向けた学習環境を実現するアプローチ

ほとんどの授業が研究者と実務家教員等によるTTで行われ、アクティブ・ラーニングやICTの積極的活用などを実際に経験しながら、Society5.0に向けた学習環境づくりについて考えを深めるとともに、それらを準備する実践的態度を養います。

プログラミングの授業の様子

養成する教師像

学校改善マネジメントコース　現職教員　勤務経験10年程度、またはそれ以上を対象

これまでの経験を学校経営という観点から整理・意味づけを行い、新たな知識とミドルリーダーとしての力量を修得し、現任校をよりよい学校へと改善する中心的役割を担うことのできる教員を養成します。

スペシャリストコース　現職教員　勤務経験７年程度、またはそれ以上を対象

これまで教科や分野・領域の指導や実践的研究で修得してきた専門的知識や実践力をもとに、専門性を深めることにとどまらず、当該教科や分野・領域の知識・考え方を超えて、日常から未来に広がる学びを創り出す教員を育成します。

授業実践力向上コース　学部からの進学者

学部での学習を土台として、子ども理解と確かな知識に根差し、子どもや学校・地域の実態に応じた授業を計画・展開できる「確かな授業力」を主軸に子どもの学びをエンパワーする学習集団としての学級を育て、子ども・保護者・教職員から信頼される教員の養成を目指します。

特別支援教育コース　現職教員 | 学部からの進学者

現職教員及び学部からの進学者などを対象に、特別支援教育に関する理解を深め、障害など特別な配慮を必要とする児童生徒一人ひとりに応じた教育が行える実践力、特別な配慮を必要とする児童生徒の家庭の理解・支援を行うことができる資質能力を高めます。

＼ 皆さんの受験に際して、入試説明会・受験カウンセリングを実施します。 ／

▶教職大学院を受験する皆さんを対象とした入試説明会及び受験カウンセリングを実施し、試験概要の説明や入学後のサポートを行っています。入試説明会・受験カウンセリングの詳細については、教職大学院のウェブサイトをご覧ください。
※なお、試験区分によっては受験カウンセリングを必須としていることがあります。詳しくは学生募集要項をご覧ください。

＼ 現職教員の皆さんへ　働きながらの学びをサポートします。 ／

▶和歌山県教育委員会からの現職教員派遣により教職大学院へ入学した場合、前半の1年間は教職大学院において研究・履修に専念し、後半の1年間は在職校において勤務と教育実践研究を並行します。研究指導は、大学院教員を中心とした指導チームが現任校を訪問して行います。
▶和歌山県教育委員会からの現職教員派遣により入学した場合、授業料の減額措置があります。詳しくは、入試説明会・受験カウンセリング時にお知らせします。

＼ 教育職員免許状取得プログラムとは ／

▶大学卒業時に中学校教諭1種免許状をお持ちの方で、新たに小学校教諭免許状の取得を希望する学生に対して、教育職員免許状取得プログラムを実施しています。なお、本プログラムの受講に際しては、3年以上の教職大学院への就学が必要となります。詳しくは、入試説明会・受験カウンセリング時にお知らせします。

●カリキュラムの科目区分と必要単位数

専攻共通科目（主に1年次）	コース専門科目（主に1年次）	実習科目（1・2年次）	実習関連科目（1・2年次）	合計
20単位	12単位	10単位	4単位	46単位

●授業科目一覧

専攻共通科目

※ ■…学校改善マネジメントコース・スペシャリストコース・授業実践力向上コース必修　■…特別支援教育コース必修

教育課程・教材研究における今日的課題Ⅰ	問題行動と保護者との連携 必修	学習過程と評価	学校・学級経営（特別支援教育）
教育課程・教材研究における今日的課題Ⅱ 必修	学校と家庭との連携（特別支援教育） 必修	能動的学習の実践的研究	和歌山における家庭・地域と連携した学校づくり
教育課程における今日的課題（特別支援教育） 必修	特別支援教育と体制 必修 必修	自立活動（特別支援教育）	ICT活用と指導技術
教材研究における今日的課題（特別支援教育） 必修	子どもの権利 必修 必修	学校・学級経営Ⅰ	学校安全と危機管理

コース専門科目（注：コースによって選択できる科目は異なります）

学校と法	学校・学級経営Ⅱ	探究のための教材開発 ―運動指導	特別支援教育推進のための関連機関との連携
学校組織と経営	理科実験（小）	探究のための教材開発 ―体育の授業づくり	知的障害・発達障害のアセスメントとケーススタディ
教育と福祉の連携	理科実験（中・高）	探究のための教材開発 ―言語感覚育成のための国語教材研究	知的障害児及び発達障害児の学習指導
教育課程編成の理論と実践（カリキュラムマネジメントを含む）	理科教材開発（中・高）	探究のための教材開発 ―思考力育成のための国語教材研究	障害児の生理病理と臨床
授業研究の理論と実践	探究のための教材開発 ―算数・数学のカリキュラム連携	探究のための教材開発 ―基礎基本習得のための国語指導方法・教材研究	特別支援教育とコンサルテーション
若手校内研修への支援	探究のための教材開発 ―統計・データ活用	探究のための教材開発 ―地域の変化と持続性の探究	発達障害のある子どもの二次障害の予防と対策
小規模校支援	探究のための教材開発 ―プログラミング	探究のための教材開発 ―現代社会の成り立ち	特別支援教育の理念と現代的課題
授業・教材研究Ⅰ	探究のための教材開発 ―生活者視点の授業づくり	探究のための教材開発 ―外国語コミュニケーション能力育成のための指導方法	
授業・教材研究Ⅱ	探究のための教材開発 ―造形表現と鑑賞	探究のための教材開発 ―言語活動充実のための教材開発（英語）	
授業・教材研究Ⅲ	探究のための教材開発 ―音楽表現と鑑賞	探究のための教材開発 ―CLIL教材開発	

実習科目

学校改善マネジメント	スペシャリスト	授業実践力向上	特別支援教育
課題リサーチインターンシップ	課題リサーチインターンシップ	授業参加インターンシップ	課題リサーチインターンシップ
学校実践実習A	学校実践実習A	授業実践実習A	授業参加インターンシップ
学校実践実習B	学校実践実習B	授業実践実習B	学校実践実習A・B
先進校実習	先進校実習	小規模校実習	授業実践実習A・B

実習関連科目

課題分析	課題探究

●２年間のカレンダー

	学生区分	クォーターⅠ			クォーターⅡ		クォーターⅢ			クォーターⅣ			
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年次	学部卒生 現職院生 共通	授　業			授　業		授　業（11月は実習）			授　業			
		実　習					※毎月、週に一回						
		課題分析					※毎月、週に一回						
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2年次	学部卒生	実　習			授　業		実　習			授　業			修　了
	現職院生	実　習								修了報告書の作成			

教職大学院では４学期制（クォーター制）を採用しています

▶教職大学院では、授業を短期間で集中的に受講することによる教育効果の向上を目指し、１科目の講義を週に２コマ実施する４学期制（クォーター制）を採用しています。学生にとって、一週間で学ぶべき学習領域が半減することにより、集中的に学ぶことによる教育効果が得られます。

共通科目の授業の様子

学部卒院生の実習

現職院生の実習（2年目）

●１年次の履修モデル

	月	火	水	木	金	土・日
午前 9:10–12:20	学校実習	全体ミーティング（研究進捗等の発表会）	専攻共通科目 （全員受講）		専攻共通科目 （全員受講）	原則お休みですが、研究会や発表会を開催する場合があります。
午後 13:10–18:00		コース専門科目		コース専門科目		

●午前の授業は 専攻共通科目 、午後の授業は コース専門科目 の履修が中心となります。また、年間を通じて 学校実習 や 課題分析 （２年次は 課題探究 ）、課業時間外に授業レポートの作成、個々のテーマのリサーチ、指導教員からの個別指導等が入る場合があります。

●年間を通じて 学校実習 や 課題分析 （２年次は 課題探究 ）、課業時間外に授業レポートの作成、個々のテーマのリサーチ、指導教員からの個別指導等が入る場合があります。

スタッフ

岡崎 裕 OKAZAKI Yutaka	教授	教育方法学・教科教育法
菅 道子 KAN Michiko	教授	音楽科教育
木村 憲喜 KIMURA Noriyoshi	教授	物質環境化学
島津 俊之 SHIMAZU Toshiyuki	教授	人文地理学
添田 久美子 SOEDA Kumiko	教授	教育行政・教師教育
寺川 剛央 TERAKAWA Takao	教授	工芸
富田 晃彦 TOMITA Akihiko	教授	天文学
豊田 充崇 TOYODA Michitaka	教授	情報教育
中川 靖彦 NAKAGAWA Yasuhiko	教授	生徒指導
二宮 衆一 NINOMIYA Shuichi	教授	教育方法学
林 修 HAYASHI Osamu	教授	保健体育科教育
村田 順子 MURATA Junko	教授	住居学
山﨑 由可里 YAMAZAKI Yukari	教授	障害児教育学
山田 真稔 YAMADA Masatoshi	教授	学校経営・理科教育
矢野 勝 YANO Suguru	教授	運動学
植西 仁美 UENISHI Hitomi	准教授	外国語活動・教科教育法
尾上 利美 ONOE Toshimi	准教授	英語科教育
北山 秀隆 KITAYAMA Hidetaka	准教授	代数学
須佐 宏 SUSA Hiroshi	准教授	国語科教育
竹澤 大史 TAKEZAWA Taishi	准教授	障害児心理学
宮橋 小百合 MIYAHASHI Sayuri	准教授	教育課程・教育方法学
大谷 真喜子 OHTANI Makiko	特任教授	学校経営・教科教育法
高幣 泰男 TAKAHEI Yasuo	特任教授	学校経営・数学教育
田中 いずみ TANAKA Izumi	特任教授	学校経営
山下 真司 YAMASHITA Shinji	特任教授	学校経営
南 正樹 MINAMI Masaki	特任教授	附属小学校長・附属中学校長
米田 良博 YONEDA Yoshihiro	特任教授	附属特別支援学校長

「教員採用試験への対策も充実」

キャリア支援

まだ教員採用試験に合格していない授業実践力向上コースと特別支援教育コースの学部卒院生のために、採用試験対策も充実しています。

① 教職キャリア支援室との連携

和歌山大学の進路支援の取り組みの1つである「教職キャリア支援室」では、校長経験者による個別面談、面接練習、小論文の添削等、院生の希望する自治体に応じて個別に支援を行っています。和歌山大学教育学部OBによる模擬面接や、試験対策講座も実施しています。

面接対策も行っています

② 教職大学院での試験対策

担当指導教員による週1回のマンツーマンでの面談に加え、月2回の定期テストの実施や直前の面接対策等、採用試験に備える取り組みを実施しています。また、各院生の授業力の課題を見い出すための「課題分析」の授業内で行う模擬授業は、採用試験の対策にもなっています。

板書の練習、指導

模擬授業を実施している様子

模擬授業後の協議

1. 大学院に行こうと思った理由　2. 大学院で一番印象に残った授業
3. 大学院の学びで、今役に立っていると思うこと　4. 後輩へのアドバイス

授業実践力向上コース修了生
中川 新菜さん
（和歌山市立高積中学校教諭）

1. 私は大学卒業を目前にしたとき自分に自信が持てず、現場に出るまでにもっと力をつけたいという思いがありました。そんな時、和歌山大学教職大学院のパンフレットを目にし、様々な校種の仲間とのかかわりが持てることや、現場に出ている先生方と同じ授業の中で学びあえるということを知り、この環境の中で学んでみたい！と思い教職大学院に進学しました。

2. 教職大学院では、様々な校種の仲間や現場に出ている先生方と一緒に学びあう機会が多く、大学時代には経験できなかったような多方面からの学びがたくさんありました。何より印象に残っているのは、週1回のインターンシップ実習や小規模校実習です。教職大学院で学んだことを実際の実習で生かし、振り返ることができたためとても自分の成長を実感できました。初めは授業に対する不安が大きかったのですが、子どもたちとの反応や意見に触れていくうちに、「もっと子どもたちが必死になるような楽しい授業を作りたい！」と思うようになりました。常に子どもたちの目線に立って考えるという意識をこれらの実習で培うことができたと思います。

3. 教科のことはもちろんですが、生徒指導や学級経営、生徒理解など学校現場に出るために必要不可欠なことを学ぶことができました。
初めて現場に出た際には周りの先生方から「生徒との距離感が上手」「落ち着いて対応できている」と言っていただけることもあり、教職大学院での経験が力になっているなと実感することができました。自分が意識していない、無意識の行動にも教職大学院での学びが役に立っているのだと思います。

4. 教職大学院での生活を通して学んだ「どんなことに対しても常に学び続ける」という姿勢が今の私を支えてくれています。皆さんも何かに迷ったら、自分を信じて挑戦してみてほしいと思います。きっと何かの形で自分の力になるはずです。

学校改善マネジメントコース修了生
和田 慎也さん
（和歌山市立貴志南小学校教諭）

1. 私は若い時から、いろいろな先生方にお世話になりながら教員をやってきました。その自分が中堅になって、学校の運営に携わるようになった時に力不足だなと思うことや、お世話になった先生方に近づけているだろうかと考えるようになりました。自分がやってきたことや考えたことを、若手教員に語れるようになりたい、もう少し成長したいと思って大学院を受験しました。

2. 毎週のインターンシップ、「学校安全と危機管理」の授業、福祉関係等の外部機関との連携に関わる授業など、学校現場で仕事に追われていたら後回しにしたり、おろそかになりがちな部分の知識や情報を習得し、補えたと思います。特にインターンシップで毎週月曜日に現任校に戻ることで、学校を客観的かつ俯瞰的に見ることができ、他の先生方の頑張りが見えたことも、大きな発見でした。2年間の研究の成果を現任校で報告させていただいた時に、皆で研究に取り組めたことで見られた子供の変化や成長を伝えられたので、現任校の先生方にも頑張ってよかったなという実感を持ってもらえたのではないかと思います。

3.「視野が広がったこと」が最も大きな成長だと感じています。大学院に行くまでは、子供のために良いと思うことなら何でもしなければいけないと考える傾向にありましたが、現在は、学校全体を見渡して必要やリソースに応じて取捨選択しないといけないと思えるようになりました。何のためにするのか、どういう価値があるのか、効果はどうかといった多角的な視点で現場を見えるようになったと思います。この多角的な視点は、大学院で出会った仲間によって得られました。他の地域から来ている院生や、幅広い年代の院生がいたことで、いろいろな刺激が得られました。働き方や、行事の持ち方、地域との連携のあり方など、地域によって多様性があることが知れて、学校での実践を見直すきっかけになっていると思います。

4. 2年目に現場に戻って、実践しながら研究を行うので、学校の先生方の協力を得られないと苦労すると思います。1年目のインターンシップでは、放課後の研究授業の指導案検討に入って一緒に話をしたり、授業の補講に入った学級で担任と話したりと、関係づくりを意識しながら過ごしていました。大学院での学びは、現場を離れて、客観的・俯瞰的に現場や実践を見直すには非常にいい機会なので、ぜひ、有意義に過ごして欲しいと思います。

スペシャリストコース修了生
塩地 文哉さん
（田辺市立会津小学校教諭）

1. 教員になって10年が経ち、私は「学び直したい」という気持ちを強く持っていました。特に、体育科に興味があり、その専門的な知識を身に付けたいと考えていました。しかし、日々教員として働きながら、そのような知識を身に付けるためのまとまった時間を確保することは難しかったです。そこで、思い切って教職大学院に進み、学ぶための時間をしっかり取ろうと考え、和歌山大学教職大学院に進学しました。

2. 私が一番印象に残っているのは、「和歌山における家庭・地域と連携した学校づくり」という授業です。その授業の最後に、グループで総合的な学習の時間のカリキュラムデザインを行ったことが一番楽しかったです。私のグループは、和歌山市の教員、和歌山市出身の学生、県外出身の学生、紀南の教員の私という、バラエティに富んだメンバー構成でした。カリキュラムをつくる過程で、メンバーの多様な見方・考え方に触れることができ、「いい経験だなあ、おもしろいなあ」と思いながら活動したことが今でも心に残っています。

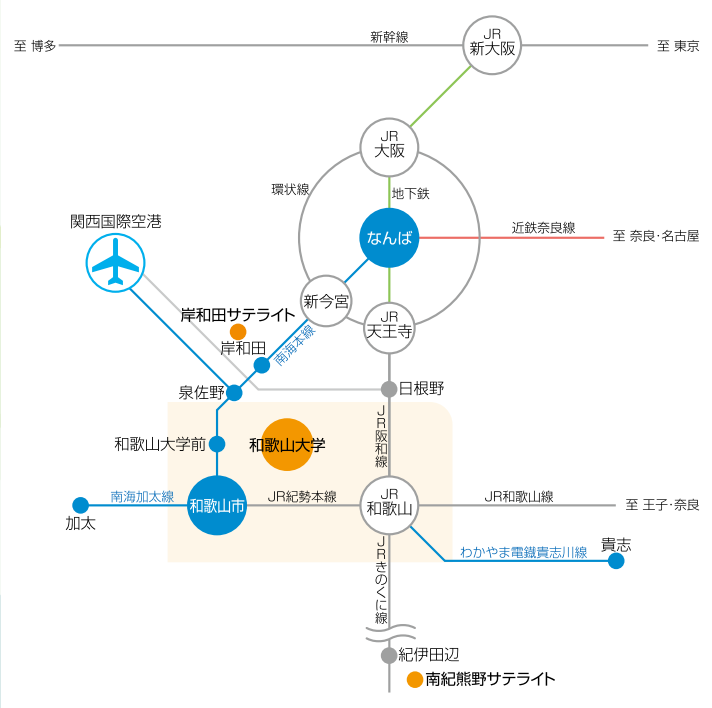
3. 大学院の学びで、今、最も役に立っていることは、学校の取り組みの成果を、根拠のあるデータで示すことの重要性に気づけたことです。大学院に行くまでは、学校で取り組んだことの成果を、「やってみていい感じでした」程度でしか示せていませんでした。大学院で修了研究に取り組み、教授の皆さんにご指導いただいたことを通して、成果の測定方法を考え、データを集め、分析することの大切さを学ぶことができました。教職大学院を修了した今もそれらを意識して、取り組みの成果などを他の教員や保護者に説明することができています。

4. 和歌山大学教職大学院では、同期の院生や教授の皆さんと対話したり、大学図書館（特に書庫）を活用したりすることで、自分の学びをどんどん進めていくことができます。学び直しのための環境がしっかり整っているので、ぜひ教職大学院への進学を検討してみてください。

ポートフォリオ

名　　称	和歌山大学大学院教育学研究科教職開発専攻
課　　程	専門職学位課程（教職大学院）
修了年限	2年（但し、授業実践力向上コースで教育職員免許状取得プログラムを選択する者は原則3年以上）
修了要件	本研究科に2年以上在学し、教職開発専攻で定めた修了認定に必要な授業科目46単以上を修得した者
取得できる学位	教職修士（専門職）（Master of Education for Professional Development）
取得できる教育職員免許状	学校改善マネジメントコース・スペシャリストコース・授業実践力向上コース：小学校教諭専修免許状・中学校教諭専修免許状（各教科）・高等学校教諭専修免許状（各教科）／特別支援教育コース：特別支援学校教諭専修免許状（知・肢・病）　※それぞれ対応する1種免許状が必要です。

●電車でのアクセスマップ



●アクセスマップ

南海「和歌山大学前」駅から和歌山バスで約4分
南海「和歌山市」駅から和歌山バス（6番・7番乗場）で約20分
JR「和歌山」駅から和歌山バス（4番乗場）で約30分

●お問い合わせ

和歌山大学大学院教育学研究科教職開発専攻（教職大学院）
Add. 〒640-8510 和歌山県和歌山市栄谷930
Tel. 073-457-7537

Mail. ksdinfo@ml.edu.wakayama-u.ac.jp

Web. https://www.wakayama-u.ac.jp/edu/graduateschool-postgraduatecourse/pde-edu/

和歌山大学公式マスコット　わだにゃん

2024. 6. 発行